

たまねぎでネギアザミウマ多発、高温経過で急増のおそれ！ ねぎ、あぶらな科野菜、アスパラガスでも注意！

長沼町及び訓子府町のたまねぎ予察ほ場において、7月2半旬にネギアザミウマの成虫数が急増し平年よりも多くなっています。6月6半旬の巡回調査では、空知、上川、オホーツク及び十勝地方の一般ほ場で寄生株率が高い地点が認められています。今後1か月は、気温は高く、降水量は平年並と予報されているため、たまねぎで多発状態が継続するものと予想されます。7月8日発表の早期天候情報では14～22日はかなりの高温と予報されており、寄生密度が急激に上昇するおそれがあります。中晩生品種では最終散布時期である7月下旬まで薬剤防除を継続してください。

ねぎでは通常7月中下旬以降に密度が上昇して、8～9月には高密度になります。特に、たまねぎほ場に近接しているねぎほ場では、密度上昇が急激に進む危険性が高いため、ほ場を観察し防除開始が遅れないようにしましょう。

キャベツ、はくさい、ブロッコリーなどのあぶらな科野菜及びアスパラガスも、ねぎと同様に7月中下旬以降は密度が高まりやすい作物です。あぶらな科野菜では定植直後から生育前半に成虫の飛び込みが多いと著しい被害が発生します。また、キャベツでは外観からは確認しにくい結球部被害が発生することがあり、多発条件では本種を対象とした薬剤防除が必要です。アスパラガスでは、若茎被害が発生する立茎栽培で特に注意が必要です。

道内において、上記作物以外にもレタス、ばれいしょ、ほうれんそうでも被害事例が確認されています。レタスではキャベツと同様に結球内被害が発生することがあり、外観からは被害が確認できないので注意が必要です。

近年道内の広い範囲においてピレスロイド剤に対する抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択の際は注意しましょう。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 長沼町及び訓子府町の無防除のたまねぎ予察ほにおいて、成虫の寄生密度が平年より高い。(表1)。
- (2) 6月6半旬の巡回調査において、空知、上川、オホーツク、十勝地方で寄生株率50%程度以上の多発ほ場が認められている。また、多発した前年、前々年よりも高い寄生株率となっている地域も認められている(表2)。
- (3) 7月8日付け札幌管区気象台の1か月予報(付記)によると、向こう1ヶ月の気象は、気温は高く、降水量は平年並と予報されていることから、発生量は平年より多い状態が続くものと予想される。また7月8日発表の早期天候情報では14～22日はかなりの高温と予報されており、寄生密度が急激に上昇するおそれがある。

4. 防除対策

- (1) 近年道内の広い範囲においてピレスロイド剤に対する抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択の際は注意する。いずれの作物においても同一系統薬剤を連用しない。
- (2) たまねぎやアスパラガスなど本種の発生が多い作物に近接したほ場では、飛び込みが多く被害が発生しやすいので注意する。特に、たまねぎの倒伏期から収穫期にかけては、密度上昇が急激に進む危険性が高いので、ほ場を観察して早めの薬剤散布を実施する。
- (3) <たまねぎ>
 - ① 効果の高い薬剤（プロチオホス剤、スピネトラム剤（2,500倍）、フロメトキン剤）を10日間隔で散布する。また、フルキサメタミド剤も上記薬剤と同等の効果が確認されている。
 - ② 中晩生品種では7月20日以降の散布を最終散布とする。
- (4) <ねぎ>
 - ① 収穫30日前までは、上位3葉の株あたり寄生頭数が10頭を上回る場合は薬剤防除をおこなう。
 - ② 収穫30日前から、効果の高い薬剤（スピネトラム剤、フロメトキン剤、トルフェンピラド剤）を7日間隔で散布する。また、プロチオホス剤及びフルキサメタミド剤も上記薬剤と同等の効果が確認されている。
 - ③ 散布間隔が10日程度に開くと防除効果が劣る場合があるため、降雨などで予定日に散布できない危険性がある場合は、前回散布5日後程度に臨機防除剤（ピリダリル剤、アバメクチン剤、ニテンピラム剤）を散布する。
 - ④ 臨機防除剤を散布した場合は、その5日後に②に上げた効果の高い薬剤を散布する。
- (5) <キャベツ>
 - ① クロラントラニリプロール・チアメトキサム剤のセル苗灌注をおこなう。
 - ② 定植3週間後から効果の高い薬剤（フィプロニル剤、スピネトラム剤、フロメトキン剤、トルフェンピラド剤）を7日間隔で散布する。また、フルキサメタミド剤も上記薬剤と同等の効果が確認されている。
 - ③ 薬剤散布は収穫7日前、またはネギアザミウマのほ場への飛び込みが認められなくなるまで継続する。
 - ④ 防除にあたっては、他害虫の発生も考慮して、効率的な防除をおこなう。
- (6) <アスパラガス>
 - ① 施設栽培では、ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると侵入抑制効果が高い。また、ハウス側面外側地面に光反射資材を敷設することも侵入抑制に有効である。なお、表面が汚れると効果が低下するので注意する。
 - ② 立茎栽培では、若茎被害を防止するため効果の高い薬剤（アセタミプリド剤、クロチアニジン剤、スピノサド剤）を7日間隔で2回散布する。散布前に擬葉のトリミングをおこなうと防除効果が高まる。

表1. たまねぎ予察ほでのネギアザミウマ発生状況

月半旬	長沼町						訓子府町					
	寄生虫数				食害程度		寄生虫数				食害程度	
	成虫		幼虫				成虫		幼虫			
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.V	0.3	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
VI	0.5	0.7	0	0.0	0.3	0.3	0	3.5	0	0.0	0	0.4
6.I	0	2.5	0	0.1	0.3	1.4	0	14.5	0	0.0	0	3.0
II	0.5	5.6	0.5	1.7	0.3	4.0	4	18.8	0	4.2	2	5.3
III	14.8	11.6	4	10.8	5.8	7.5	7	30.4	0	24.2	7	9.8
IV	5.5	13.9	12.5	44.7	15	12.4	17	47.3	0	160.7	21	25.3
V	25	19.8	11	179.5	24	17.0	41	40.0	89	321.2	28	35.1
VI	35	37.8	113	229.1	30	21.7	36	61.8	269	638.0	52	42.9
7.I	57	66.9	34	199.8	46	28.1	53	66.8	614	1247.1	65	57.2
II	226	105.5	488	350.3	58	38.3	237	112.9	682	1494.5	78	71.3
III		106.3		435.9		46.6		126.5		1597.7		82.6
IV		125.1		1331.2		55.0		113.5		1712.0		92.3
V		112.0		504.7		60.5		70.0		1642.7		95.3
VI		41.4		207.1		48.4		37.8		1667.9		97.7

注) 25 株調査、寄生虫数は抽出3葉あたり、食害程度は全葉。

表2. 巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター		6月6半旬			普及センター		6月6半旬		
		本年	前年	前々年			本年	前年	前々年
空知	本所	2.4	0	76.0	網走	本所	5.9	0.8	16.5
	南東部	6.7	2.7	20.0		清里	96.0	52.0	-
	南西部	37.3	69.3	40.0		美幌	2.0	18.5	2.0
	中空知	4.0	8.0	16.0		遠軽	13.0	28.0	28.0
石狩	北部	18.0	10.0	4.0	十勝	本所	33.3	6.0	-
上川	富良野	22.0	12.0	3.0		東部	14.0	10.0	92.0
	大雪	25.0	0	-					
	土別	5.0	8.0	0					

注) 25 株調査。

付記

北海道地方 1か月予報
(7月10日から8月9日までの天候見通し)

令和3年7月8日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

北海道日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。北海道オホーツク海側・太平洋側では、平年と同様に曇りの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、北海道日本海側で高い確率80%、北海道オホーツク海側・太平洋側で高い確率70%です。2週目は、高い確率70%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 北海道地方	10	30	60
【降水量】 北海道地方	30	40	30
【日照時間】 北海道地方日本海側	30	30	40
【日照時間】 北海道地方オホーツク海側	30	30	40
【日照時間】 北海道地方太平洋側	30	40	30

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 北海道地方日本海側	10	10	80
1週目 北海道地方オホーツク海側	10	30	60
1週目 北海道地方太平洋側	10	30	60
2週目 北海道地方	10	20	70
3~4週目 北海道地方	30	40	30

■低い □平年並 ■高い